

インパクト志向金融宣言

第1回 リアルギャザリング（旧ワーキングレベル会合）

2026年7月23日 09:30～11:30

オンライン・リアル同時開催

インパクト志向金融宣言

Japan Impact-driven Financing Initiative

本日のアジェンダ

1. 新規署名機関紹介
2. 事務局連絡
3. 【トピックス】
 - セッション1：「GPIFインパクト投資委託調査研究報告書について」
 - セッション2：「UNEP FI セクター・インパクト・マトリックスについて」
 - セッション3：「モビリティデータを活用した信用創造とインパクト投資 ～インドネシアにおけるギグワーカー向け追加融資事業へのインパクト投資～」
4. 分科会報告

新規署名機関の紹介

- 7月1日時点署名機関数は78社（署名金融機関68社、署名協力機関10社）

署名日	署名金融機関	署名協力機関
4月1日付	UNLEASH Capital Partners株式会社	
4月1日付		株式会社Sinc
5月1日付	株式会社UNERI	

事務局連絡

1. 監査終了
2. 月次収支報告報告
3. 設立5周年記念コンファレンス
4. 新規分科会設立の件（TISFD分科会、海外分科会）
5. その他連絡
 - a. MEDITERRANIA CAPITAL PARTNERS
 - b. ミラサスメディア取材協力

監査報告および臨時総会成立のご案内

監査報告書

インパクト志向金融宣言
運営委員長 金井 司敬

2026年5月12日

インパクト志向金融宣言
監事 明治安田生命保険相互会社 運用企画部 責任投資推進部長 細川 真典
監事 株式会社キャピタルメディカ・ベンチャーズ 代表取締役 青木 武士

私たち監事は、インパクト志向金融宣言運営規程第32条の規定に基づき、2025年1月1日から2026年3月31日までの事業年度のインパクト志向金融宣言の活動状況（決算を含む）を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

監事は、運営委員及び事務局と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、運営委員及び事務局からその業務執行の状況を示す重要書類の共有を受け、必要に応じて追加説明を求め、職務執行の状況を調査いたしました。

また、決算書類または経費の内訳に関する資料の提出を受け、当該事業年度において、2025年3月末日までは社会変革推進財団（SIIF）の資金、2025年4月以降は署名機関から納入された年会費により賄われている人件費・経費支出の使途の妥当性について検討いたしました。

2 監査意見

事業報告等の監査結果

- 一 提供された重要な書類は、団体の活動状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 運営委員および事務局の職務執行に関する不正の行為又は運営規程に違反する事実はありません。
- 三 社会変革推進財団（SIIF）から受けていた財政的な支援（2025年1月～3月）および署名機関から納入された年会費を有効に活用し、適切な資金使途に充てられているものと認めます。

以上

2025年度の監査が実施され、監事より運営委員会に監査報告書が提出されました。これに伴い、以下の通りご報告および臨時総会を開催いたしました。
（メールにて実施6月10日成立）

1. 臨時総会の開催

本メールをもって臨時総会を開催いたします。**（6月10日をもって総会成立）**

2. 監査報告書の送付

運営規程第33条4項に定められた総会への報告として、添付にて監査報告書を送付いたします。

関連運営規程抜粋

第18条（招集）：同委員長は、定時総会を招集するときはその会議を開催する日の15日前までに、臨時総会を招集するときはその会議を開催する日の7日前までに、それぞれ署名金融機関及び協力機関にその旨を通知するものとする。

第33条（監事）：監事は、本宣言の活動状況（決算を含む）を監査し総会に報告する。

本件についてご質問、あるいは総会の実開催・審議のご要請等がある場合は、ご遠慮なく**事務局**までご連絡ください。

月次収支の状況報告（2026.6月末）

2026/04～2026/06

	4月	5月	6月	合計
会費収入（2026年度分）	24,130,000	3,284,000	1,300,000	28,714,000
イベント運営手数料収入	100,000	80,000	3,500,000	3,680,000
【売上高合計】	24,230,000	3,364,000	4,800,000	32,394,000
【売上原価】	0	0	0	0
【売上総利益】	24,230,000	3,364,000	4,800,000	32,394,000
業務委託費（P）	542,000	1,322,090	1,130,500	2,994,590
業務委託費（S）	415,800	457,570	391,327	1,264,697
旅費交通費	3,406	3,472	1,736	8,614
近距離交通費	3,406	3,472	1,736	8,614
通信費	432	2,487	171,152	174,071
通信費（代表電話）	432	432	432	1,296
ドメイン登録料	0	2,055	0	2,055
Googleライセンス費用	0	0	170,720	170,720
備品・消耗品費	3,300	6,600	0	9,900
支払手数料	1,980	2,475	2,640	7,095
システム構築費	0	8,250	37,125	45,375
雑費	55,000	0	0	55,000
視察アレンジ費用	55,000	0	0	55,000
【販売費及び一般管理費合計】	1,021,918	1,802,944	1,734,480	4,559,342
【営業利益】	23,208,082	1,561,056	3,065,520	27,834,658
【営業外収益合計】	0	0	0	0
【営業外費用合計】	0	0	0	0
【経常利益】	23,208,082	1,561,056	3,065,520	27,834,658
【特別利益合計】	0	0	0	0
【特別損失合計】	0	0	0	0
税引前当期純利益	23,208,082	1,561,056	3,065,520	27,834,658
【当期純利益】	23,208,082	1,561,056	3,065,520	27,834,658

未入金（既存署名機関）

- 脱炭素成長型経済構造移行推進機構（3月残高確定のため時間を要したものの。7/15時点にて確定）

今後入金予定（新規署名機関）

$$\begin{array}{rcl}
 & 27,834,658\text{円} & \text{（今年度収支）} \\
 + & 22,771,653\text{円} & \text{（繰越金）} \\
 = & 50,606,311\text{円} & \text{（6.30残高）}
 \end{array}$$

Report Release

レポート「地域のシステムチェンジに向けたアプローチとシステムチェンジファイナンスの考え方」を公開

～地域金融機関に期待される役割と実践のプロセス～

インパクト志向金融宣言（IDFI）地域金融分科会は、地域における課題構造への向き合い方と、それを支える金融のあり方を整理した本レポートを公開しました。

Key Features

01.具体的なアクションの提示

地域金融機関の具体的なアクションを促すことを目的に、システムチェンジの考え方とファイナンスのあり方を整理。

02.構造そのものへの働きかけ

個別事業の改善にとどまらず、課題を生み出す構造そのものを組み替えていく視点を提供。

03.国内外5つの事例解説

実務家が経営や実務の中でどのように関与しうるかを、国内外の事例を交えて解説。

5周年記念コンファレンス

● インパクト志向金融宣言 設立5周年記念

IDFI設立5周年記念カンファレンス

インパクト志向金融の これまでの軌跡と今後の5年、 そしてその先へ

世界・日本のインパクトファイナンスの最前線をリードするリーダーたちが集結。
不確実性の時代における金融の真の役割と未来を議論します。

📅 2026年9月2日（水）～3日（木）

📍 コングレスクエア日本橋

🌐 東京・日本橋

🎟️ 参加無料

インパクト志向金融宣言 設立5周年記念カンファレンス

📅 2026年9月2日（水）～3日（木）開催

世界・日本のインパクトファイナンスを
リードするキーパーソンが集結

Amit Bouri / Joohee Rand /
Mike McCreless / Sean Gilbert



参加無料 | 申込フォーム近日公開



Amit Bouri



Joohee Rand



Mike McCreless



Sean Gilbert

[コンファレンスウェブサイト](#)
[申し込みサイト](#)

是非社内にも告知拡散ご協力お願いします

新規分科会たちあげのお知らせ

海外分科会

背景・目的

[背景] 日本からの海外向け投融資が必ずしも活発とは言えない現状において、海外の環境・社会課題解決のインパクト実現を目指します。

[目的] 海外におけるインパクト創出の意義を再確認し、持続可能な海外向け投資の推進・拡大を実現する。

[何する] 複数の個別事例紹介を通じて、①財務リターンとの両立条件、②民間資金動員の要件と役割、③インパクト可視化のあり方を分析。設立3年以内の書籍公刊を目指します。

座長・参加メンバー

- ・伊藤 晃之 氏 (JICA 上級審議役)
- ・高橋 智志 氏 (インパクトサークル CEO)
- ・馬場 ちひろ 氏 (三井住友信託銀行 室長)

当初参加表明機関: 三菱UFJ銀行、みずほ銀行、農林中央金庫、Global Mobility Service、ミュージックセキュリティーズ、GLIN Impact Capital

TISFD分科会

目的・概要

2027年末までに最終化される**TISFD**（不平等および社会関連財務開示タスクフォース）フレームワークが実務上有益なものとなるよう、内容を理解し、策定途上のフレームワーク案（ベータ・バージョン）に対して有効なフィードバックを提出するための意見交換を行います。

体制・メンバー

- ・共同座長: 今田 克司 氏 (SIMI)
- ・アドバイザー: 木村 武 氏 (PRI理事)
- ・メンバー: セミナー参加者や宣言署名機関からの関心表明を受けて構成された有志メンバー

スケジュール

第1回キックオフ：7月29日に開催予定

セッション1

GPIFインパクト投資委託調査 研究報告書について

発表者

ニッセイアセットマネジメント株式会社
林 寿和 氏

2025年6月にGPIFが公表したインパクト投資に関する委託調査研究報告書について、受託機関であるニッセイアセットマネジメント様より、公開レポートの内容に基づく調査の概要をご紹介します。

* なお、本発表はあくまで公開レポートに記載された内容に基づくものであり、GPIFの見解を示すものではありません。

セッション2

UNEP FI セクター・インパクト・マトリックスについて

発表者

株式会社格付投資情報センター (R&I)

石渡 明 氏

株式会社日本格付研究所 (JCR)

川越 広志 氏

ポジティブインパクトファイナンス（PIF）の実務では環境・社会・経済におけるインパクトトピックに対してどのような事業が関連するのかを特定します。UNEP FIは2018年より、国際標準産業分類（ISIC）に基づき細分化した業種コードとインパクトトピックの対応表を「セクター・マッピング」というエクセルファイルで公開し、随時更新してきました。金融機関はセクター・マッピングを使って借入人の事業が及ぼす正負のインパクトを特定します。

今回UNEP FIはこれに、関連事由、ステークホルダー、インパクトを起こす行為、バリューチェーン上の位置づけ、事業機会、リスクの種類・内容、参照情報などの情報を大幅に追加した「セクター・インパクト・マトリックス」を、詳細なユーザーガイドとともに新たに公開しました。本ツールはPIFのインパクト評価だけでなく、取引先のマテリアリティ評価（戦略的優先事項の特定・開示対応）、投融資先のスクリーニング・デューディリジェンス・エンゲージメント、インパクト投資目的に沿う投融資ポートフォリオの構築など、金融機関の戦略・オペレーション上の意思決定を幅広く支援します。

なお以前からあるインパクトトピックを体系化した文書「インパクトリーダー」も、テーマ・トピックを再整理した改訂版が合わせて公開されました。本セッションではマトリックスの導入スケジュールと活用方法などを紹介していただきます。

セッション3**モビリティデータを活用した信用
創造とインパクト投資**

～インドネシアにおけるギグワーカー向け追加融資
事業へのインパクト投資～

発表者

Global Mobility Service株式会社

代表取締役社長CEO 中島 徳至 氏

インパクトサークル株式会社

代表取締役社長CEO 高橋 智志 氏

ミュージックセキュリティーズ株式会社

取締役 渡部 泰地 氏

概要

インドネシアにおけるギグワーカー向け追加融資事業を対象としたインパクト投資のパイロットプロジェクトについてのご報告です。

本プロジェクトは、インパクト志向金融宣言の署名機関が連携し、匿名組合スキームによるファンド組成・投資・運用・インパクト評価のすべてのプロセスを実践的に担うものです。

モビリティデータを活用した新たな信用創造モデルの可能性と課題、インパクト評価の具体的アプローチについて、各社の役割分担を踏まえながら現状を共有していただきます。

今後の予定、事務局連絡

■ 今後の全署名機関向けリアルイベント（旧WL会合）

（仮）2026年 10月23日（金）

（仮）2027年 1月22日（金）